

2016年11月7日

平成 28 年度基礎水理シンポジウムのご案内

昨年度開催しました土石流から掃流までの流砂現象に関するシンポジウムに続きまして、細粒土砂の輸送現象に関するシンポジウムを開催します。皆様お誘い合わせの上、多数ご参加いただきますようお願いいたします。

河川における細粒土砂の移動は地形変動の観点のみならず汚染物質の輸送の観点からも近年重要視されています。一方、我が国の浮遊砂に関する基礎的研究は、20年前、30年前と比べると格段に規模が縮小しており、将来この分野を担う人材の育成は順調とは言い難い状況にあります。

細粒土砂の輸送形態としては、河床材料が流れの作用により巻き上げられて輸送される浮遊砂と、河床表面には存在しない粒子の輸送(SSやウォッシュロード)とに大別されています。前者には力学モデルによる解析法が開発されているのに対し、後者に対しては観測データに基づく予測法が適用されるにとどまり、現時点では両者を統合する高度なモデルは登場していないように思われます。また、火山地域で発生するような泥流に関しては、浮遊砂とは異なるアプローチで解析されているため、山地から下流域までの細粒土砂の流出を統一的に解析するには解決すべき課題が多く残されていると言えます。

本シンポジウムでは、細粒土砂の流送に関して、近い将来、統合的なモデルを構築できるのか、また、そのためには何が必要かを明らかにしたいと考えています。まずはウォッシュロードや浮遊砂や泥流に関する解析法の現状を示し、今後の展開の可能性を議論します。若い研究者や技術者のやる気を引き出せるようなシンポジウムにしたいと思っておりますので、ご参加をお願いします。

開催場所:土木学会講堂(東京都四ツ谷)

開催日時:2016年12月5日(月)10時30分~17時00分(10時00分受付開始)

参加登録:事前登録は不要(参加無料)

プログラム(案)

開会		10:30~10:40
1. 細粒土砂の輸送の解析に関して気になっていること(仮題)		
国立研究開発法人土木研究所 ICHARM	江頭進治	10:40~11:10
2. 細粒分を含む土砂流出に関する解析(仮題)		
株式会社建設技術研究所	村上正人	11:10~11:55
3. 高濃度条件下の浮遊砂の沈降速度などに関する検討(仮題)		
国土交通省国土技術政策総合研究所	内田太郎	13:00~13:45
4. 浮遊砂は純粋な拡散過程として取り扱えるか(仮題)		
新潟大学農学部生産環境科学科	権田 豊	13:45~14:30
5. 土石流での層流-乱流の遷移(仮題)		
筑波大学大学院生命環境科学研究科	堀田紀文	14:40~15:25
6. 浮遊砂に関する話(仮題)		
早稲田大学理工学術院	関根正人	15:25~16:10
7. 総合討論		16:10~16:50
閉会		16:50~17:00

土木学会水工学委員会基礎水理部会 里深好文

水文部会報告

- 水文部会研究集会 秋田 10月14日金曜
 - 13:00～17:00 勉強会 総合保健センター第一研修室
 - 「水文学世代間鬭争～上と下の世代に言いたいこと～」
 - 13:00-13:10 開会挨拶, お礼 風間部会長
 - 13:10-13:50 河村明先生(60代)
 - 13:50-14:30 沖大幹先生(50代)
 - 14:30-15:10 田中賢治先生(40代)
 - 15:20-16:00 佐山敬洋先生(30代後半)
 - 16:00-16:40 渡部哲史先生(30代前半)
 - 16:40-17:00 総合討論



水文部会報告

- 水文部会研究集会 秋田 10月14日金曜
 - 21:00～24:00 勉強夜会 若手VS中堅VSベテラン
 - 会場 イーホテル
 - 司会 大石哲副部長
 - 21:00～21:20 吉川沙耶花博士
 - 22:00～22:20 田上雅浩博士
 - 23:00～23:20 峠嘉哉博士



参加者 37名

今村能之, 山口大学

瀬戸心太, 下妻達也(D1), 長崎大学

沖大幹, 佐谷茜(D2), 嶋野美佐子(D2), 吉田奈津妃(D2), 徳田大輔(M2), 神谷秀明(M1), 東大生産研

佐谷さん初日夜会から

吉川沙耶花, Gao Lu (D3), 丸山聖矢(M1), Kuo Che-Wei(M1), 武川晋也(M2), 東京工業大学

大石哲, 小川まり子, 神戸大学

小川さん 初日のみ 2日目朝出

渡辺一也, 秋田大学

渡部哲史, 田上雅浩, 池内寛明(D1), 木村雄貴(M2), 東大工学研究科

風間聡, 小森大輔, 峠嘉哉, 内田典子(M2), 平賀優介(M2), 菅原雄太(M1), 田中裕夏子(B4)

小森先生 夜会のみ

河村明, 金塚匠(M2), 太崎友輔(M2), 首都大学

田中賢治, 佐山敬洋, 山口弘誠, 山本浩大(M1), 小坂田ゆかり(M1), 京都大学防災研

多田毅, 防衛大学

横尾先生, 福島大学, 初日勉強会のみ

水文部会報告

- 水文部会研究集会 秋田 10月15日土曜 **見学会**
案内: 湯沢河川国道事務所 佐藤徳男 副所長
 - 8:45 イーホテル集合
 - 8:50 バス出発
 - 9:30-10:10 物部長穂記念館 唐松城 (淀川沿い)
 - 10:20 強首輪中堤(車中から遠景) 雄物川
 - 10:30 刈和野特殊堤(車中から遠景)
 - 10:50-12:20 刈穂酒造(神宮寺)
 - 12:40-13:30 昼食 道の駅 雁の里せんなん
 - 13:50-14:40 六郷湧水群
 - 14:50-15:20 大曲しょう水路(大曲花火大橋)
 - 15:50 秋田空港
 - 16:40 秋田駅

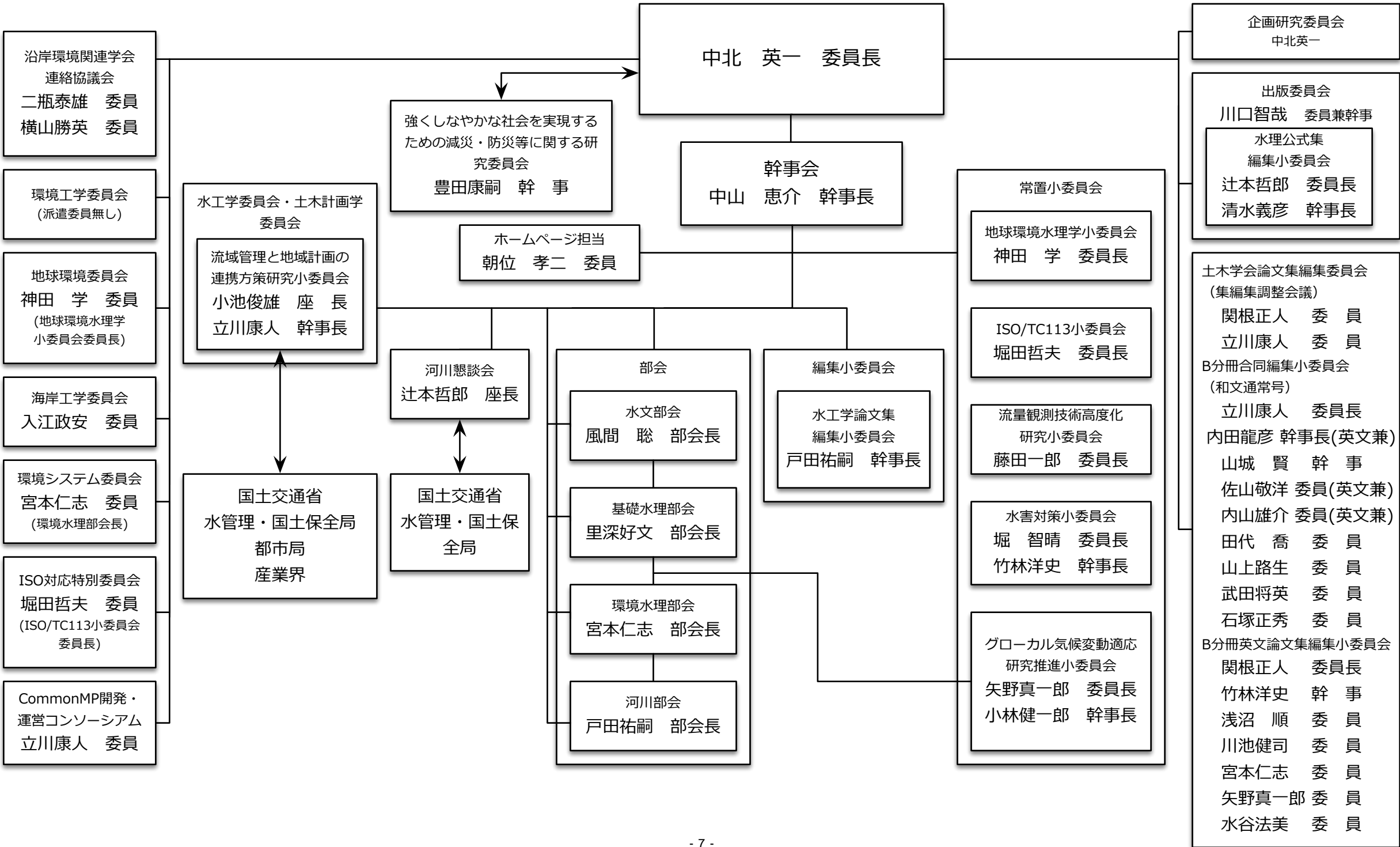


水文部会報告

- レーダー雨量計50周年シンポジウム
 - 10月18日13:30～17:30, 東京大学武田ホール
 - I部 レーダー雨量計50年の歩み 司会 深見和彦
 - 国土技術総合政策研究所 深見和彦
 - 元利根川ダム統合管理事務所 木暮陽一
 - 元東芝 畑浩靖
 - 元土木研究所 水野雅光
 - 建設技術研究所 兪朝夫
 - II部 レーダー雨量計の活用 司会 中北英一
 - 福岡工業大学 森山聡之
 - 淀川河川事務所 藤原雅二
 - 神戸大学 大石哲
 - 中央大学 山田正
 - 参加者300名超

水文部会報告

- 第17回地下環境水文学に関する研究集会
 - 11月26日～27日(予定)
 - 筑波大学総合研究棟SB112(羽田野先生)
- 次回 水工学講演会期間中(九州大学)



レーダー雨量計50周年記念事業

「わが国のレーダー雨量計研究開発50年の歩み」

2016年10月18日 13:30～17:30 開催 (シンポジウム参加者:292名 懇親会:約100名)

主催:土木学会水工学委員会 後援:国土交通省
共催:実践水文システム研究会 水文・水資源学会

配布チラシ

我が国の レーダー雨量計 研究開発50年の歩み

日時 **2016年**
10月18日(火) 13:30-17:30

東京大学本郷キャンパス 武田先端知ビル5F 武田ホール
東京メトロ千代田線 根津駅1番出口徒歩5分

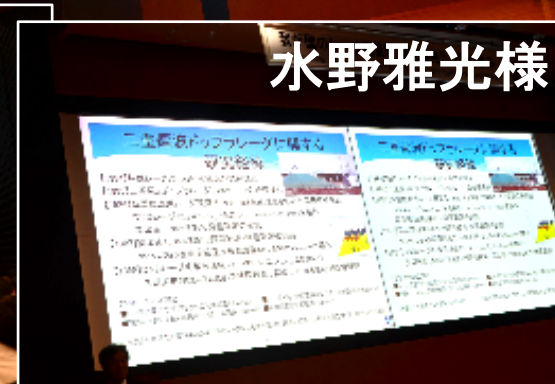
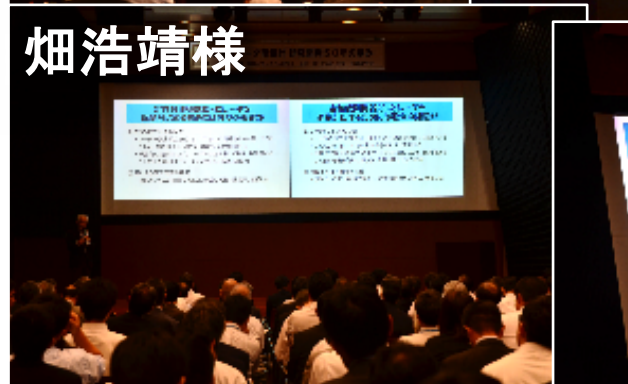
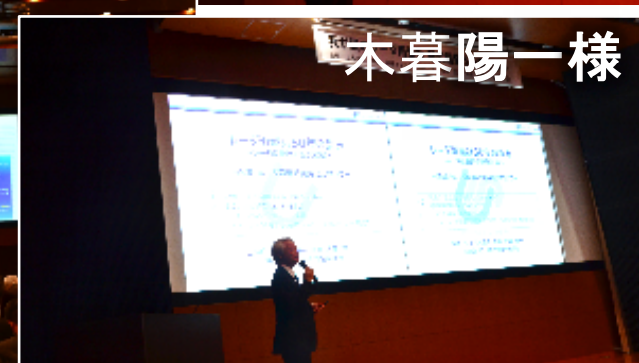
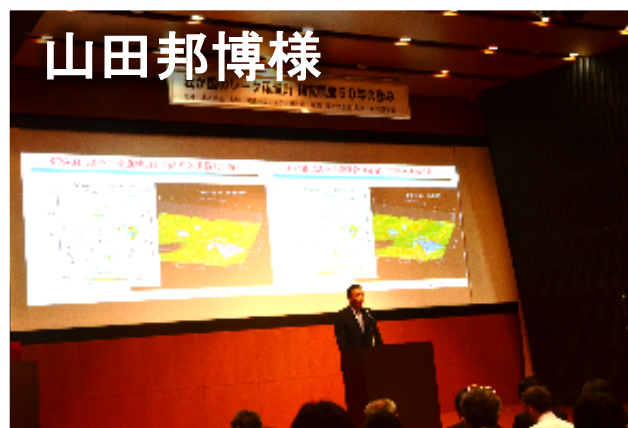
来賓
山田邦博 (国土交通省水管理・国土保全局長)

登壇者・コーディネーター
中北英一 (京都大学)
深見和彦 (国土技術政策総合研究所)
木暮陽一 (元 関東地方整備局利根川ダム統合管理事務所)
畑浩靖 (元 株式会社東芝)
水野雅光 (元 土木研究所)
兪朝夫 (株式会社建設技術研究所)
森山聡之 (福岡工業大学)
藤原雅二 (近畿地方整備局淀川河川事務所)
大石哲 (神戸大学)
山田正 (中央大学) ※敬称略

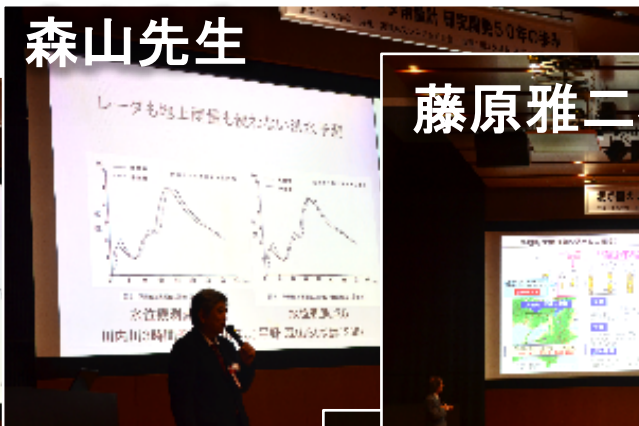
定量的な雨量推定 (QPE)、流量推定は極めて重要なレーダー雨量計の意義であるが、さらにそれを乗り越えて定量的降雨予測 (QPF) や流量予測を行い、さらにその有効利用をすることなどのより安全で快適な河川の管理を行うためにレーダー雨量計を用いた「研究・開発」が位置づけられてきた。今回は土木学会水工学委員会として、レーダー雨量計のハードとしての開発や整備だけでなく、その「研究・開発」とそれに関わった人々の50年の歩みと想いをこれからの研究者・技術者と共有して、うるおいの中にも安心がある国土を今後形成していく、ステップとしたい。

*終了後、武田ホールホワイエにて懇親会(会費:5000円)を予定しています。みなさまのご参加をお待ちしております。この行事は「土木学会認定CPDプログラム」(認定番号:JSCE16-0516)です。

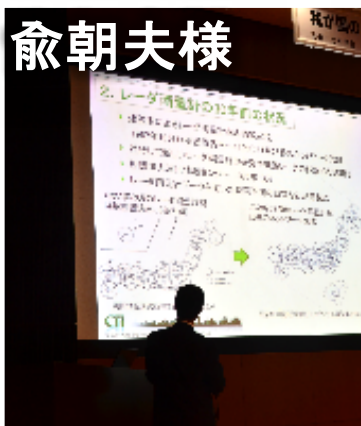
申し込み
レーダー雨量計50周年記念事業事務局
MAIL: radar50@chikyu.mei.titech.ac.jp
(東京工業大学 土木・環境工学系 鼎研究室)



森山先生



兪朝夫様



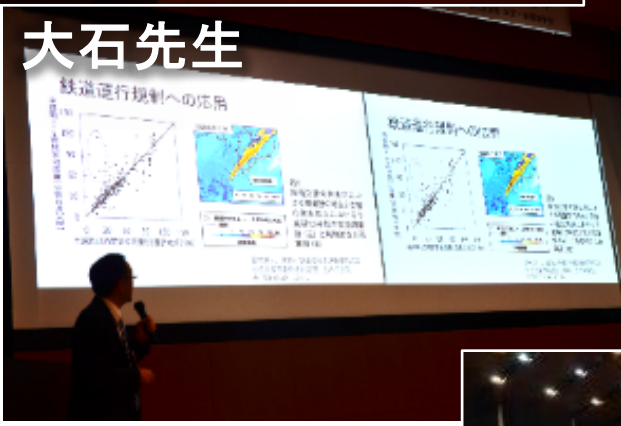
藤原雅二様



全体討議



大石先生



山田先生



会場の様子①



懇親会



会場の様子②



「第 22 回水シンポジウム 2017 in おきなわ」 実行委員会規約（案）

（名 称）

第1条 本会は、「第 22回水シンポジウム 2017 in おきなわ」実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

（目 的）

第2条 実行委員会は「第 22 回水シンポジウム 2017 in おきなわ」（以下「水シンポジウム」という。）の円滑かつ効果的な開催を図ることを目的とする。

（実行委員会）

第3条 実行委員会は、水シンポジウムの開催及び運営に関する企画事項の決定を行うものとし、実行委員は別表 1 に掲げる職にある者をもって充てる。

2 実行委員長は、土木学会水工学委員会委員長の職にある者をもって充てる。

3 実行委員長は、会務を総括し、実行委員会を代表する。

4 実行委員会に顧問を置くことができる。

5 顧問は、実行委員会の活動に際し、指導と助言を行うものとする。

6 実行委員会の会議は、実行委員長が召集するものとし、会議の議長は実行委員長が務める。

ただし、実行委員長に事故等のあるときは、あらかじめ実行委員長が指名する実行委員がその職務を代行する。

7 実行委員長が必要と認めたときには、実行委員長の指名した者を実行委員に加えることができる。

（企画部会）

第4条 水シンポジウムの開催内容に関する総合的な企画立案を行うため、企画部会を設置する。

2 企画部会員は別表 2 に掲げる職にある者をもって充てる。

3 企画部会長は、土木学会水工学委員会幹事長の職にある者をもって充てる。

4 企画部会長が必要であると認めたときは、企画部会長の指名した者を企画部会員に加えることができる。

- 5 企画部会の会議は、企画部会長が召集するものとし、会議の議長は企画部会長が務める。ただし、企画部会長に事故等のあるときは、あらかじめ企画部会長が指名する企画部会員がその職務を代行する。

(監 事)

第5条 監事は、実行委員会の会計を監査するものとし、実行委員長の指名した者をもって充てる。

(任 期)

第6条 実行委員、顧問、企画部会員、監事の任期は、この実行委員会が解散するまでとする。

(事務局)

第7条 実行委員会および企画部会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局員は別表3に掲げる職にある者をもって充てる。
- 3 事務局長は、沖縄県土木建築部河川課企画開発班長の職にある者をもって充てる。
- 4 事務局は、沖縄県土木建築部河川課に置く。

(経 費)

第8条 実行委員会の経費は、分担金その他の収入をもって充てる。

- 2 経費の精算は、事業終了後に行う。

(資金の管理および支出)

第9条 実行委員会の資金の出納を管理するため会計を置くこととし、実行委員長の指名した者をもって充てる。

(その他)

第10条 この規約に定めるもののほか、水シンポジウムの開催に関し必要な事項は、実行委員会に諮り、実行委員会の委員長がこれを定める。

附 則 この規約は、平成28年10月25日から施行する。

「第22回水シンポジウム2017 in おきなわ」 プログラム(案)

■ 10月31日(火) 第1日目 シンポジウム

会場：パレット市民劇場(約390人を想定)

【午前の部：メイン会場(パレット市民劇場)】

9:00 開 場

9:30 開 会(30分)

シンポ趣旨説明(2分) 司会

開会挨拶(8分) 実行委員会委員長

実行委員紹介(2分) 司会より紹介、壇上一礼

来賓挨拶(各5分) 沖縄総合事務局長、沖縄県知事、那覇市長

プログラム案内(3分) 司会

10:00 特別講演(50分) 未定

10:50 基調講演(60分) 講師未定

11:50 昼 休 憩

【午後の部：分科会等】

12:50

テーマ別分科会(130分)

第1分科会 担当：土木学会

会場：パレット市民劇場 390席

第2分科会 担当：行政

会場：県庁講堂 280席

15:00 休憩

15:10 児童生徒・市民団体等による発表(全体会議打合せ)(40分)

15:50 全体会議(60分)

各分科会まとめとメッセージ発信

16:50 次回開催県挨拶(10分)

17:00 閉 会

【パネル展示】(会場：県庁1階ロビー・パレット那覇市民劇場ロビー等利用)

■ 11月1日(水) 第2日目 現地見学会(未定)

定員 約40人を想定

水シンポジウムについて

平成 28 年 11 月 9 日

1. 水工学委員会の新執行部による初年度における水シンポジウムのサポート体制について

平成 29 年度の「水シンポジウム in おきなわ」の実行委員長および企画部会長は、平成 29 年度からの水工学委員会の委員長および幹事長が務めることになる。しかし、シンポジウムの開催までには、7 月に開催予定の実行委員会・企画部会合同会議のみであり、新委員長および幹事長に大きな負担がかかることとなる。そこで、現委員長および幹事長が“顧問”や“オブザーバ”として参加し、「水シンポジウム in おきなわ」をサポートすることを提案したい。

2. 沖縄での水シンポジウムへのご参加のお願い

沖縄には河川工学を中心とした専門家が少なく、様々な問題に対する対応が不十分となることがある。そこで、今回の水シンポジウムの開催をきっかけとし、水工学委員会を中心とした多くの研究者にご参加いただきたい。

第70回年講部門セッション名一覧(案)

部門	セッション名 (和語)	セッション名 (英訳)
II	水理学・環境水理等	Hydraulics and Environmental Hydraulics
	流体力学	Fluid Dynamics
	数値流体力学	Computational Fluid Dynamics
	乱流	Turbulent Flow
	管路の水理	Hydraulics of Pipe Flow
	水理構造物	Hydraulic Structures
	流体力	Fluid Force
	密度流	Density Induced Flow
	氾濫流の水理	Hydraulics of Inundation
	河口の水理・水質	Hydraulics and Water Quality in Estuaries
	水圏の生態系(魚類・底棲生物・植生等)	Ecosystem in Water Environment (Fishes, Benthic Organism, and Vegetation)
	水圏環境の保全・再生・創造	Preservation, Restoration and Creation of Water Environment
	物質輸送・循環(栄養塩類等)	Mass Transportation and Circulation (Nutrients)
	構造物周辺の流れ・洗掘	Flow and Scour Around Structures
	植生水理	Hydraulics of Vegetated Channels
	水理計測・観測手法	Measurement and Technique on Hydraulics
	河川環境構造物(魚道・人工生息場等)	Structures for River Environment (Fish Way and Artificial Habitat)
	水系土砂管理	Sediment Control and Management
	水文学・水資源・河川工学	Hydrology, Water Resources and River Engineering
	地球環境問題	Global Environment
	自然共生	Symbiosis with Natural Environment
	水災害リスクマネジメント・危機管理	Risk Management of Water Disasters
	都市の水・熱環境	Urban Water and Heat Environment
	地球規模の水・エネルギー循環	Global Energy and Water Cycles
	気候変動・社会変動と水循環	Hydrological Cycles for Climatic and Social Change
	国際的プロジェクト・国際協力	International Cooperation
	流況制御	Flow Condition Control
	流域管理・計画	Management and Planning of River Basin
	都市雨水流出管理・計画	Management and Planning of Urban Rainfall Discharge
	水災害・防災	Water Disaster and Disaster Prevention
	都市の水災害	Water Disaster in Urban Area
	国際的水問題	International Water Issues
	地下水理・地下水文	Underground Hydraulics and Hydrology
	水工情報システム	Hydro-information system
	水文・水循環計測	Hydrologic Observation
	水文統計	Stochastic Hydrology
	流出・洪水	Flood and Runoff Process
	水資源計画・管理	Water Resources Planning and Management
	大気水象(降水・霧)	Hydrometeorology
	大気陸面相互作用	Land-Atmosphere Interactions
	河川・湖沼・ダム	River, Lakes and Dams
	河川の水環境(物理学的動態解析)	Water Environment in Rivers
	流砂(土石流, 泥流, 掃流, 砂浮, 遊砂, ウォッシュロード, 底泥)	Quicksand (Debris Flow, Mud Flow, Bed Load Transport, Suspended Load Transport, Wash Load, Bed Material)
	河道の水理	River Channel Hydraulics
	土砂の生産・流出	Sediment Yield
	流路・河床形態	Flow Course and River Bed Configuration
	流路・河床変動	Flow Course and River Bed Variation
	河川地形	River Morphology
	河川工法	River Works
	河川計画・管理	River Planning and Management
	閉鎖水域環境(湖沼・貯水池における物理学的動態解析)	Environment and Water Quality in Closed Water Area (Lakes and Reservoirs)
	閉鎖水域の水理(湖沼・貯水池)	Hydraulics in Closed Water Area (Lakes, Marshes and Reservoir)
	ダム堆砂・排砂	Sedimentation in Reservoirs and Flushing
	開水路・複合水路(複断面・わんど)の水理	Hydraulics in Open Channel and Compound Channel (Compound Channel, Embayment)
	拡散・分散	Diffusion and Dispersion
	海洋・港湾・海岸工学	Ocean, Port and Coastal Engineering
	沿岸域の環境・生態系	Near Shore Environment and Ecosystem
	沿岸域のアメニティ・人間工学	Near Shore Amenity and Ergonomics
	波動	Wave Dynamics
	砕波・灘上	Wave Breaking and Wave Run-Up
	風波・不規則波	Wind Waves and Irregular Waves
	高潮・津波・長周期波	Storm Surge, Tsunami and Long-Period Waves
	海底・海水面境界過程	Boundary Processes of Sea Bottom and Air-Sea Interface
	沿岸域の流れ	Near Shore Current
	波力・流体力・水力・地震力	Wave Force, Fluid Force, Ice Force and Seismic Force
	波・流れ制御・利用構造物	Structures for Waves & Current Control
	海岸・海洋・港湾・水産施設	Coastal Structures, Port & Harbor and Fishery Facilities
	漂砂機構	Littoral Drift Mechanism
	飛砂・飛沫	Brown Sand and Sea Spray
	海岸地形	Coastal Morphology
	漂砂制御	Littoral Drift Control
	局所洗掘	Local Scouring
	底泥の挙動	Bed Mud Behavior
	海岸地盤	Coastal Geomechanics
	海岸災害・防災	Coastal Disaster and Prevention
	海岸・海洋の資源・利用	Utilization of Coastal and Ocean Resources
	港湾・海岸計画	Port and Coast Planning

平成 29 年度全国大会共通セッションテーマの募集

応募締切日：11 月 30 日（水）

土木学会では、全国大会年次学術講演会におきまして、従来の 7 部門を越えた研究や複数の部門に深く関連する研究のテーマを対象として、「共通セッション」と称する学術講演部門を設置しております。共通セッション設置の目的・意義は、これまでの部門にとらわれない集まりとすることによって、異なる見方・アプローチや異なる分野の情報交換による研究の躍進や多様な発展を目指すと同時に、新しい研究分野の模索や誕生を望むことであり、平成 6 年度より共通セッションのテーマを公募することとしております。

部門を越えたハイレベルの議論を行う場として共通セッションを積極的に利用していただけるよう、みなさまのご応募をお待ちしております。

なお、平成 17 年度よりテーマ「土木教育一般」を共通セッション内に常置する事と致しました。

●応募資格

土木学会内の各種委員会ならびに、会員有志や科学研究費のグループ等、任意のグループからの発案を受付けます、グループの代表者にはセッションのオーガナイザーになっていただき、セッションの運営等にご助力をお願いすることになります。

●応募方法

オーガナイザーは A4 用紙に、(1)オーガナイザー・氏名・連絡先住所・電話番号・FAX 番号、E-mail アドレス、(2)セッションのタイトル（30 文字程度以下。和文と英文）とその主題（200 字以内。和文と英文）、(3)予想される複数の応募部門の番号、の 3 点を明記の上、土木学会事務局共通セッション公募係あて E-mail、FAX または郵送にて提出してください。

●応募先

〒160-0004 新宿区四谷 1 丁目（外濠公園内）
土木学会事務局「共通セッションテーマ公募」係 担当 山村
TEL 03-3355-3442 / FAX 03-5379-0125
E-mail : t-yama@jsce.or.jp

●応募期限：11 月 30 日（水）必着

●共通セッションの取扱い

提案されたセッション名とテーマは学会誌 2 月号の全国大会案内に提示いたしますが、投稿数により実際にそのセッションが成立するか否かの判断は、最終的に全国大会委員会にご一任くださいますようお願いいたします。

オーガナイザー :

氏名 : 中北英一

住所 : 京都大学防災研究所

〒611-0011 宇治市五ヶ庄

電話・FAX 番号 : 0774-38-4265

連絡担当者 (実務代理)

氏名 : 矢野真一郎

住所 : 九州大学大学院工学研究院環境社会部門

〒819-0395 福岡市西区元岡 744 (ウエスト 2 号館 1033 号室)

電話番号 : 092(802)3414

E-mail : yano@civil.kyushu-u.ac.jp

セッションのタイトル : 気候変動による影響への適応

Adaptation to the impact due to climate change

主 題 : 気候変動の影響は近年の豪雨災害の増加により顕著化しており防災対策の必要性は疑う余地がないばかりでなく、利水や環境といった側面でも気候変動への適応が急務となっている。本セッションは、気候変動や地球規模での環境変動をキーワードに、水圏における治水、利水、環境といった様々な視点から取り組む影響評価や適応研究について幅広く議論し、より横断的な研究の推進、連携の活性化、新たなテーマの発掘を目指す。

The impact of climate change has been revealed to cause damage not only to human society but also to ecological system. In the session, the influence of climate change on global change in environment is discussed extensively from a viewpoint of disaster prevention and sustainability of ecological system. The aims are to enhance multidisciplinary studies and to develop a new adaptation technique to the impact due to climate change.

予想される複数の応募部門 : 第 2 部門、第 4 部門、第 7 部門

平成 29 年度全国大会特別セッションテーマの募集

応募締切日：11 月 30 日（水）

特別セッションは講演者をフェロー会員に限定したセッションで、フェロー会員から全世代の土木技術者へ提案や問題提起をしていただき、部門、世代を越えた議論の場を作ることを目指しています。そして、土木分野が 21 世紀の国づくりに果たす役割を考え、未来へ向けて情報を発信していきます。

●応募資格：土木学会の会員でしたら誰でも結構です。

●応募方法

応募者は A4 用紙に、(1)氏名・連絡先住所・電話番号・FAX 番号、Eメールアドレス、(2)セッションのタイトル（30 文字程度以下。和文と英文）とその主題（200 字以内。和文と英文）、の 2 点を明記の上、土木学会事務局特別セッション公募係あて E-mail、FAX または郵送にて提出してください。

●応募先

〒160-0004 新宿区四谷 1 丁目（外濠公園内）
土木学会事務局「特別セッションテーマ公募」係 担当 山村
TEL 03-3355-3442 / FAX 03-5379-0125
E-mail : t-yama@jsce.or.jp

●応募期限：11 月 30 日（水）必着

●特別セッションの取扱い

特別セッションのテーマの選定は、全国大会委員会にご一任くださいますようお願いいたします。

平成 29 年度全国大会開催に伴う研究討論会企画

- 1) 委員会名：水工学委員会
 連絡者氏名：矢野真一郎
 連絡先住所：九州大学大学院工学研究院環境社会部門
 〒819-0395 福岡市西区元岡 744（ウエスト 2 号館 1033 号室）
 電話番号：092(802)3414
 E-mail アドレス：yano@civil.kyushu-u.ac.jp
- 2) 研究討論会のタイトル
 気候変動への適応研究推進に向けて！
- 3) 座長氏名：中北英一
 所属：京都大学防災研究所
- 4) 話題提供者氏名・所属：
 神田学・東京工業大学
 森信人・京都大学
 宮本仁志・芝浦工業大学
 矢野真一郎・九州大学
 国土技術政策総合研究所から 1 名
- 5) 定員：200 名

主題（300 字以内）

地球温暖化時の降水・洪水への適応策の提案だけでなく、水循環や水環境を含めた気候変動の影響評価、適応策の提案が求められている。しかし、影響評価研究に比較して、適応策の提案研究が十分に進み活用されているとは言いがたい。そのため、気候変動の様々な分野への影響が明らかとなっていることを踏まえ、適応に向けたより一層の研究推進および成果の発信が必要であると考え。本討論会においては、トップダウンとしての基本計画的な位置づけでの実務機関と気候研究コミュニティの連携を保ち、かつボトムアップとして、水工学として適応のために議論・研究しておくべき「外力や環境の変化に伴う技術、計画論とは何なのか？」を、水工学の観点から議論するものである。

(備考)

水工学委員会胃から以下のように順位を付けて、2 件、申し込みます。

1 位：気候変動への適応研究推進に向けて！（本申請）

2 位：水工情報システムの発展

話題提供者の都合で、本企画を学会初日（9 月 7）としていただきますとありがたく存じます。よろしくお願ひします。また、これらの企画がともに採択され、両方にて話題提供する方がいらっしゃるため、別時間帯に設定していただきますとありがたく存じます。よろしくお願ひ申し上げます。

平成28年度 全国大会 研究討論会 企画（水工学委員会）

- 1) 委員会名：水工学委員会
連絡者氏名：立川康人
連絡先：京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻
〒615-8540 京都市西京区京都大学桂 C1
Tel: 075-383-3362
Email: tachikawa@hywr.kuciv.kyoto-u.ac.jp
- 2) 研究討論会のタイトル：
水工情報システムの発展
- 3) 座長氏名：山田 正（中央大学理工学部土木工学科）
- 4) 話題提供者名：
立川 康人（京都大学）、
大平 一典（中央大学）、
菊森 佳幹（国土技術政策総合研究所）他
- 5) 定員：約 200 名

主題：

激甚化している水災害に備えるため、降水現象や洪水流下等の水文・水理現象を確実に捉え、水工情報として防災・減災の活動に使えるよう高度化・システム化することが求められている。このことから、水文・水理現象を観測する技術とシミュレーションする解析技術（データ補完・データ同化等）、観測・解析した結果を可視化する技術などを高度に組み合わせ、有効に活用することの重要性が増している。しかしながら、個々の技術は独自の研究開発分野ごとに発展してきた経緯があり、互いに連携する機会が少なかった。そこで本研究討論会では、これらの個々の観測技術、解析技術、可視化技術等の水工情報システム全体を形づくる各分野の研究開発者が連携し、互いに発展するための方策について議論する。

（備考）

今年度から第2部門の一般セッションに「水工情報システム」を新設しました。この一般セッションと今回、提案します上記討論会は密接に関連します。そこで、もし、この討論会が採択されましたら、可能であれば、この一般セッションと同一日にしていただけますとありがたく存じます。よろしくお願いいたします。